森づくり最前線

磐城森林管理署　原町森林事務所
地域統括森林官（原町・馬場担当区）玉井　宏

原町森林事務所は、福島県南相馬市に所在し、管理する国有林は、相馬市、南相馬市、浪江町及び新地町にまたがり、その多くは太平洋の海岸平地から隆起した阿武隈山地の北東縁にあります。およそ６割がスギ、ヒノキ、アカマツを主体とした人工林で、かつて木材産業が隆盛を誇っていた時代には、麓から森林鉄道が引かれ地域産業の主幹となる役割を果たしてきました。今でもその名残として、市内の各所に軌道敷跡が残されています。

管内を俯瞰して見ると、相馬市の西側に日本百景で南北朝時代から信仰の山として知られる霊山（りょうぜん）８２５メートル、今も山伏がほら貝片手に峰行を続けています（写真①）。少し南下して鮭が遡上する真野川の上流には立石鍾乳洞群（１９６７年に発見された新種のゴミムシなど固有の昆虫が生息）。東の海岸に目を向けるとこれも日本百景の松川浦（南北５キロメートル、東西３キロメートルの潟湖）。砂州で形成された海側の細長い陸地にはクロマツが自生、植林され、文字どおり白砂青松の風光明媚な景観や潮害防備など多面的な機能を担ってきました。

写真①　霊山（りょうぜん）

その松林も東日本大震災による津波で跡形もなく破壊されてしまいましたが、この松林は天然の障壁として津波の凄まじいエネルギーを緩和する役割を果たしました。松川浦では、今、この海岸防災林を再生する治山事業を進めています。事業は国有林と民有林、一体的な計画とするなど連携した事業として進めていて、これまでに地盤のかさ上げ（盛土）は完了し、クロマツの植栽を続けています。約80ヘクタールあるこの地での植林活動には、企業、団体等のご協力もいただいており、今後３年を目途に完了する計画です（写真②、③）。

写真②　整備が進む松川浦No.１

管内南東部の海岸林「雫（しどけ）地区」では、本年６月10日、天皇皇后両陛下をお迎えし第69回全国植樹祭が開催されます（写真④）。当日は、当森林事務所も「おもてなしブース」で多くの方々と交流し、地域の森林の再生について、理解を深めていただきたいと考えています。

写真③　整備が進む松川浦No.２

私がこの地に赴任して１年が経ちました。昨年は震災後初の立木販売を行い、地域の木材産業に明るい話題を提供しました。

原発事故による避難指示が順次解除される中、原発事故以降、森林整備が行われていなかった地区でも、森林内の空間線量率や地元市町村の要望等を踏まえつつ、森林整備や木材生産を本格的に再開していくこととしています。

３年ほど前からはカシノナガキクイムシによるコナラ、ミズナラへの被害が顕著になっておりカシナガホイホイ（粘着テープ）での駆除にも奮闘中です。

森づくりは、長いスパンを要します。現地の状況をよく観察・検討しながら必要な施業を低コストで実施し、多面的機能を高度に発揮する森林の育成に取り組むことが肝要と考え、日々山に向かっています。

写真④　準備が進む全国植樹祭会場

発行所　関東森林管理局
編集　総務課
■TEL（027）210-1158
■FAX（027）230-1393